

Outcome Prediction in Acute Stroke Patients by Continuous Glucose Monitoring

和田, 晋一

<https://hdl.handle.net/2324/2534523>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	和田 晋一
論文名	Outcome Prediction in Acute Stroke Patients by Continuous Glucose Monitoring
論文調査委員	主査 九州大学 教授 飯原 弘二 副査 九州大学 教授 二宮 利治 副査 九州大学 教授 康 東天

論文審査の結果の要旨

急性期脳卒中患者の入院時高血糖と転帰不良との関連は多くの既報で示されているが、入院加療中の血糖値の推移と転帰との関連は十分に調べられていない。申請者らは、近年糖尿病診療で用いられており、5分毎に自動的に血糖値を記録できる持続血糖測定(CGM)機器を急性期脳卒中患者に装着し、血糖値推移を評価することで、3ヶ月後の転帰不良に関連する血糖指標を明らかにする臨床観察研究を行った。2015年10月～2016年6月に当院に急性期脳卒中中で入院し同意が得られた連続100例を対象とし、発症後24時間以内にCGMを装着して72時間連続で血糖値を観察した。血糖指標として、全測定期間中の最高血糖値、最低血糖値、平均血糖値、偏差(偏差)、血糖8mmol/Lの上限逸脱面積(8AUC)、血糖8mmol/L以上分布時間(全測定時間に占める8mmol/L以上時間の割合:8時間比)、4mmol/L未満の低血糖の有無、変動係数である%CVを算出し、3ヶ月後の転帰不良に関連する血糖指標を検討した。結果として測定期間中の平均血糖値、8AUC、8時間比が高値である症例で3ヶ月後の転帰不良であった。脳卒中急性期の持続血糖測定で得られた血糖指標により脳卒中後の転帰を予測できる可能性がある。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。